

令和7年度4回蓮田市上下水道事業審議会会議録

日時 令和7年10月10日（金）

午前10時00分～

会場 蓼田市浄水場

管理棟新館2階会議室

〈出席委員〉 采澤修八会長、秋山敦副会長、大澤正見委員、黒田みどり委員、
小林由美子委員、鈴木貴美子委員、高橋智委員、爪川京子委員、
富江寛二委員、中野拓治委員、山崎正平委員

〈事務局〉 山口市長、中田上下水道部長、原田水道課長、
岡田下水道課長、山岸水道課主幹、萩原水道課副主幹、
島田水道課技師、大内水道課主事

〈傍聴者〉 なし

- | | |
|--------------------------|---------|
| 1 開 会 | 岡田下水道課長 |
| 2 会長あいさつ | 采澤会長 |
| 3 市長あいさつ | 山口市長 |
| 4 議 事 | |
| (1) 蓼田市水道ビジョンの策定について（諮問） | 島田水道課技師 |
| | 大内水道課主事 |
| (2) その他 | |
| 5 質 疑 応 答 | |
| 6 連 絡 事 項 | 岡田下水道課長 |
| 7 閉 会 | 岡田下水道課長 |

議事（1）についての主な質疑応答

委 員：長寿命管の採用とあるが、どの位寿命が長くなると期待されているのでしょうか。

事務局：既存管だと法定耐用年数では40年とされているが、長寿命管だとメーカーによると、80年から100年は支障なく使用できるとのことであります。

委 員：給水人口の見通しで、令和元年度から令和6年度の給水人口の減少率と比較すると、令和6年度以降の減少率が大きいがその要因は。

事務局：給水人口の見通しについては、コーホート要因法に基づいて算出した結果となっております。

委 員：更新需要の見通しで、令和8年度から10年度の他の事業費が他の年度と比較すると多いがその理由は。

事務局：令和8年度から10年度は、現在の計画に基づいて算出した概算事業費となっています。11年度以降が今回の水道ビジョン策定にあたり、新たに管路更新の積算に基づいて算出したものになるので増減が発生しております。

委 員：現在、井戸が10本あり、そのうち4本が休止中のことなのでしょうか。

事務局：現在、4本の井戸が井戸自体の機能が低下していることから休止していますが、残りの井戸で賄うことができている状況です。

委 員：蓮田市の供給単価が、同規模の平均と比較すると10円程度高いが、要因についてどのように分析しているのか。

事務局：要因については、一概には言えないところがありますが、蓮田市は口径別ではなく、用途別という料金体系を採用していることが、要因の一つではないかと考えております。

委 員：蓮田市の家庭用で1か月あたり 20 m^3 の水道料金は、埼玉県下でも上位に入るほど高いと思うが、埼玉県下で何番目か。

事務局：順位について集計はしておりませんが、高いほうであると認識しております。

委 員：収支計画において、ケース1から3まで示されているが、料金回収率が10.5%というのは市民のかたの負担が大きくなることと、今後の経済状況の変化も見ながら段階的に水道料金を見直すということから、ケース2が妥当だと思います。

委 員：環境学習や社会学習の場として色々な水道事業への理解、水道に対する信頼性の向上の取り組みや、自己水源の活用、有効率の向上、AIや省エネルギー、水質管理などの取り組みについても、もう少し盛り込んでいただきたい。

事務局：内容につきましては、検討させていただきます。